

特集

土木施設×Re

わが国の土木施設は、時代の要請にこたえながら蓄積され、膨大な数の構造物が存在している。それらの中には、建設されてから50年以上経過してもなお現役で使い続けられているもの、機能が追加され進化するものもあれば、需要がなくなった、機能を果たさなくなったなどを理由に撤去されるものもある。

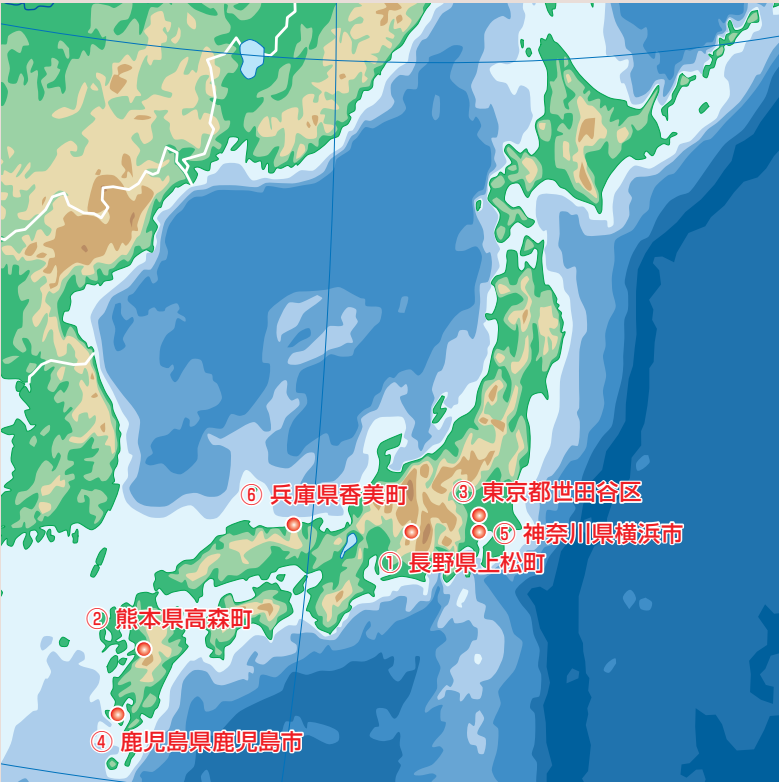
一方で、修復、移設、一部利用など何らかの形で使われ続けているものもある。人に例えるなら「土木施設にもさまざまな人生がある」と言える。

そこで注目したのがReという接頭語を用いた単語である。例えば、既存ストックを利活用したもの＝Reuse、重要な価値を持つものとして、使用頻度は減るが残されているもの＝Remain、別の場所で使われているもの＝Recycle、貴重な文化遺産として別の場所で修復されたもの＝Restore、保持されているもの＝Retain、建設を中止し当初の目的とは別のものとして生まれ変わったもの＝Rebornなど。

これらは、まさに何らかの形で使われ続けている土木施設を表すことを可能にするキーワードなのではないかと考えた。そこで、今回はそんなRe〇〇に注目し、魅力ある土木施設を探っていく。

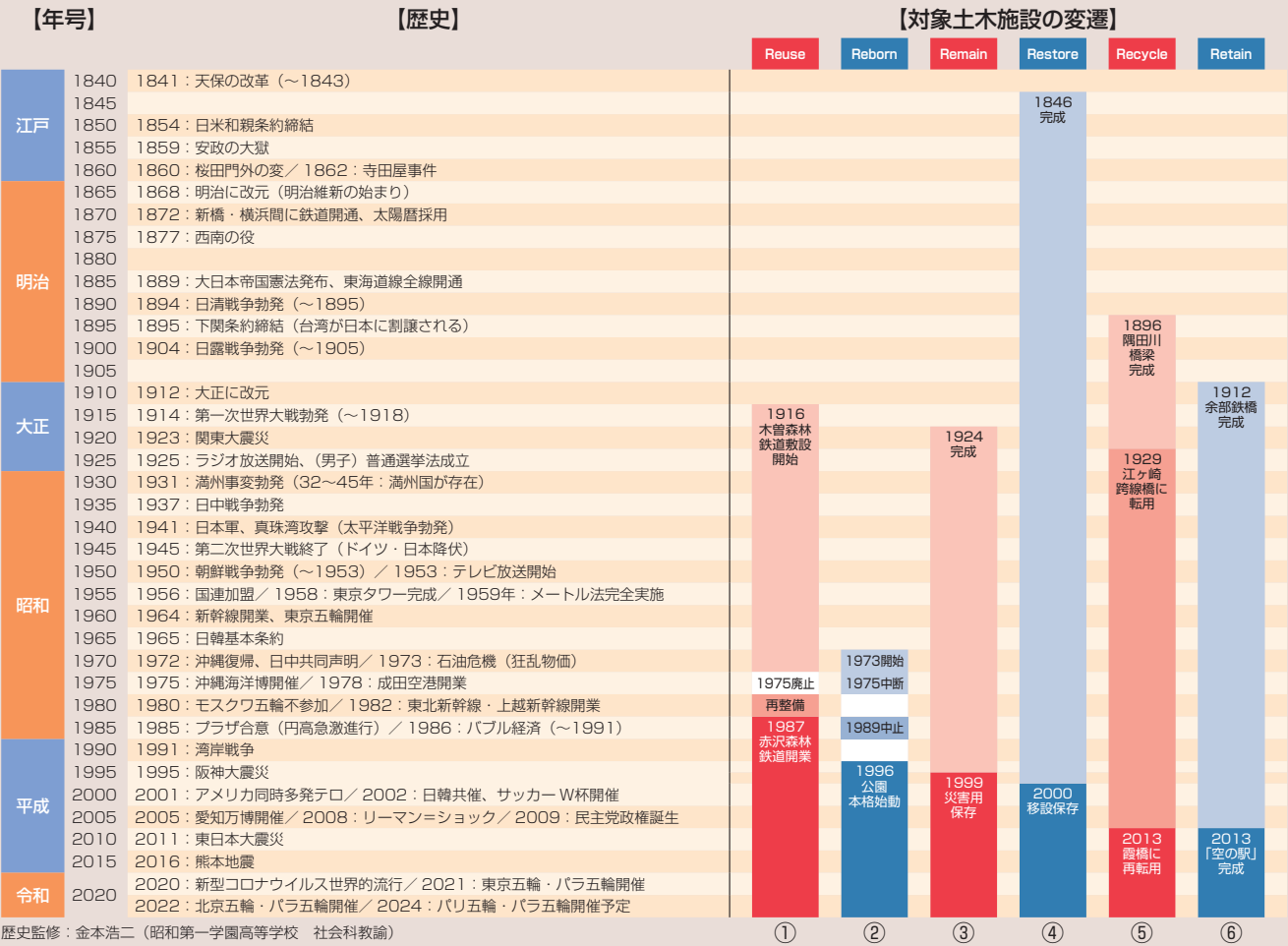


取材位置図



- ①赤沢森林鉄道×Reuse
かつて木材運搬用として運行していた鉄道は、観光用として復活を遂げた。自然体験ができる美しい森を走る鉄道に注目する。
- ②高森湧水トンネル×Reborn
鉄道用として建設が進められたこのトンネルは列車が通ることなく公園となった。当初の目的とは異なり観光施設となったこのトンネルについて探る。
- ③駒沢配水塔×Remain
日本初の巨大なコンクリート製の配水塔は、災害時の応急給水施設として残っている。おしゃれな配水塔の歴史を振り返る。
- ④西田橋×Restore
城下町鹿児島島の玄関口とよばれていた石橋は、貴重な文化遺産として別の場所で修復された。毎年のように洪水が発生していた川で耐え抜いた石橋の技術をひもとく。
- ⑤霞橋×Recycle
歴史的価値の高いイギリス製ブラットラス橋は一度だけでなく二度も別の場所で再利用された。二度も生まれ変わったこの橋の魅力に迫る。
- ⑥余部鉄橋「空の駅」×Retain
風規制による度々の運行中止により架け替えが決まったこの橋梁。展望施設として保存されることになった経緯をたどる。

土木施設年表



歴史監修：金本浩二（昭和第一学園高等学校 社会科教諭）